

まつしとしょかん 松支図書館だより 6月号

平成27年6月1日
熊本県立松橋支援学校図書館発行

今年、氷川分教室が2学年になり、小学部、中学部のプログラムも増えて、「キズナ ～今一つになる時～」のスローガンのもと、児童生徒のみなさんのチームワーク、先生方の熱い情熱、保護者の限らない愛情応援で、素晴らしい運動会ができたと思います。

さて6月は人権集会や体験学習や現場実習なども始まります。また梅雨入り間近です。蒸し暑いっとういしい日々が続くと思いますが、日々の生活習慣を規則正しく行い、健康的な毎日を送って過ごしてください。そして雨の日には、一人一人静かに読書の時間を楽しんでください。

【高等部文化委員会活動始まる！】

新入生が入り新たな組織での文化委員活動が始まりました。5月8日の委員会では、先月末に決定した文化委員長の司会進行で、まずは自己紹介から始まりました。それから6月の行事予定の「いじめ根絶集会」に向けて協議しました。この委員会活動の各委員は、本人の希望にまかせられるそうです。みなさんの希望した文化委員活動に期待しています。



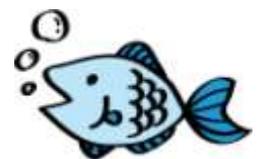
☆☆☆☆最近読んだ本紹介☆☆☆☆

【ようこそ、わが家へ】 池井戸 潤著 小学館
真面目なだけが取り柄の会社員・倉田太一は、ある夏の日、駅のホームで割り込み男に注意をした。すると、その日から倉田家に対する嫌がらせが相次ぐようになる。身近に潜む恐怖を描いた長編。
(現在月曜午後9時からTKUで放送中「ようこそ、わが家へ」原作本)



【飼育中のめだかが抱卵・・・】

図書館の真ん中の机の上で育てているめだかさん。
連休明け・・・ぐらいから毎日1匹から3匹ぐらいが抱卵しています。飼育図鑑で確かめながら卵の孵化にトライしていこうと思っています。児童生徒のみなさん、先生方、保護者の方々もめだかさんを見に来て下さいね！



☆☆☆ リレーエッセイNO. 40 ☆☆☆

ひろ しょうせつ
広がる小説

「はらぺこあおむし」・・・記憶に残っている中で、私が最初に読んだ本です。「はらぺこ」という可愛い言葉の響き、アイスクリーム、すもも、カップケーキ等たくさんの食べ物の美味しいような絵、終わりの2ページに広がる色鮮やかな蝶の姿…全てがお気に入り、何度読んでも飽きなかったことを覚えています。1冊の絵本から、読書の楽しさを知り、読む本が小説中心になった今でもそれは変わりません。小説には不思議な力があると、読むたびに思います。決して目に見えない、文字だけの世界なのに、登場人物の姿や声が頭に浮かび、自分までその世界に入り込んでしまったかのような感覚になるからです。同じように、小説の世界に魅了されている人はきっとたくさんいるかと思えます。

ところでみなさん、好きな小説家の作品を読み尽くしてしまった…面白い小説を読んでみたいけどどれを選べばいいのかわからない…なんてこと、ありませんか？そんな時、オススメしたいのは、「アンソロジー」です。アンソロジーは、1つのテーマに沿って様々な小説家が短編作品を書き、それを1冊にまとめている小説のことです。一つ一つの物語は短いですが、その分読みやすく、面白さが凝縮されています。また、その小説家の描く世界をもっと読みたくなり、それが新しい小説に出会うきっかけにもなります。アンソロジーはまさに、「美味しいとだけいいとこどり集」なのです。この機会に、オススメのアンソロジーを紹介します♪



6人の作家から、青春とスポーツを愛する全ての人へ。陸上、サッカー、フィギュアスケート etc...スポーツの経験があるなしに関わらず、夢中で何かに取り組むことの素晴らしさを感じるこのことができる作品です。



Reborn (再生・復活) をテーマにした7つの物語。ツライ状況に置かれた主人公たちが、出会う人や経験によって前向きに新たな一歩を踏み出していきます。読み手に元気をくれる一冊です。



「黄色い冬」「緋色の帽子」「金色の涙」・・・11色のタイトルで綴られた作品。色のイメージとともにどの物語にも引き込まれます。「世界は色でできている」というフレーズにも納得です！

アンソロジーをきっかけに、好きな小説家が増え、私の小説の世界はどんどん広がっていきました。また、人と本についての話をしたり、おすすめの一冊を教えてください（金子先生いつもありがとうございます！）ことも楽しみにになりました。みなさんも、アンソロジーから新しい小説の世界をぜひ、発掘してみてください。